

窯作り10(円筒部組立)

5年前に山から粘土質の赤土を軽トラックに3杯運び、ふるいをかけ石やゴミを取り除き平行して製作した型枠でレンガを作ってきました。予備も含め合計300個程のレンガを作り終えたのは2014年の春頃に作り始めてから足掛け3年過ぎました。ようやく全ての部材も製作できましたのでまず「炭焼き」円筒部から製作過程を報告します。



円筒部のレンガは220個程度です。コンクリートを配合した自然乾燥の手作りレンガです。



焼き床を「炭焼き」「ピザ・パン焼き」用に2枚作成。「アサヒキャスター」という耐火セメントを型に流し込んでいます。

重さ100kg程度ですので台座(キャスター付き)に乗せるのにも大変でした。

乗せた「焼き床」の上に一段目のレンガを耐火セメントを使い繋ぎ・積みをしていきます。



円筒部は「炭焼き」を前提としていますので底の厚みは「焼き床+レンガ2段」の3層構造です。

水平を保ちながら円筒一周13個のレンガを10段積んでいきます。



「炭焼き」の排煙部の構造。ここに煙突を設置しますが、「炭焼き」毎に煙突を外し塞ぐ構造になります。

「炭焼き」部の炭の「出し入れ」と火入れ「焚口」の2重の構造でここも都度塞ぐ必要があります。

「ピザ・パン焼き」の焼き床を設置しますが、100kgありますので少しずつ上げていきます。

焼き床はレンガとの隙間に耐火セメントを塗布しますが、難作業となりました。

